

反転授業と LMS を活用したオンライン 文法授業の試み

松 井 健 吾*

Online Grammar Lessons using Flipped Classroom Method and LMS

MATSUI Kengo

Abstract:

This paper reports the results of a synchronous online Basic Spanish Grammar Class held in 2020. The class's main features were that it made grammar learning more autonomous and active by incorporating the flipped classroom method. Additionally, it created an environment where iterative practice for grammar understanding can be performed using a LMS. After examining the class evaluation questionnaire by the students, we concluded that this online grammar lesson using the flipped classroom method was overall quite successful. On the other hand, areas that could be improved upon, including the progression of the lessons, were also found. Finally, we also suggest that this methodology should be actively applied to future language education and learning, including in the context of face-to-face lessons.

キーワード：リアルタイム型オンライン授業、反転授業、学習管理システム (LMS)、スペイン語初級文法

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、大学の授業は今もなお少なからずその影響を受けている。神田外語大学では感染拡大が始まった昨年度の前期にすべての開講科目がオンラインで実施されることになった。後期にはごく一部の授業に限り対面もしくはハイフレックス（対面とオンラインで同時に行う方法、いわゆるハイブリッド型）で実施されたが、それも大半は 15 週のうちの数回の授業のみで、あくまでオンライン授業

* 神田外語大学 外国語学部イペロアメリカ言語学科 専任講師

が原則であり、依然としてキャンパスは閑散とした状態が続いた。これまでとは大きく異なる環境で学びの質を確保しつつその機会を絶やさない手段を模索した1年であった。

本稿では本学スペイン語専攻1年次の専攻語必修科目「スペイン語基礎」のうち、2020年度に行った文法クラスのリアルタイム型オンライン授業について報告する。その主な特徴としては、反転授業の手法を取り入れて文法学習をより自律的で主体的なものにしたこと、LMSを活用して文法理解のための反復練習が行える環境を整えたことが挙げられる。こうした授業の良かった点および改善点について履修者が学期末に回答した授業評価アンケートの結果をもとに検討するとともに、今後の語学教育・学習へのICT利用について考えるヒントとしたい。

2. 科目の概要

本学スペイン語専攻ではカリキュラム上、専攻言語であるスペイン語の語学授業を「地域言語科目」と呼び、このうち1年次の必修科目である「スペイン語基礎Ⅰ(a)(b)」(小文字のアルファベットはそれぞれ前期・後期の科目であることを示す)を週6コマ(計6単位)履修することになっている¹⁾。入学定員は84名であり、これを4グループに分けて各コマの授業を行なっている。次は本科目のシラバスに記された「授業の目的」である：

週6コマの授業でスペイン語の「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能の基礎を学びます。

テキスト「プラサマヨール」(週2コマ)のクラスでは、文法シラバスに基づき、総合的な演習を通じて文法応用力、読解力を身につけます。「ヌエボ・エスパニョール・エン・マルチャ」(週3コマ)のクラスでは、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)に基づき、オーラルコミュニケーションに重きを置いて、A1レベルのスペイン語運用能力を身につけます。文法テキスト(週1コマ)では、基本スペイン語文法について学び、その体系的な理解を目指します。

(シラバス 2020年度、<https://camjweb.kuis.ac.jp/portal/slbsskgr.do>)

本稿で取り上げる授業は上記のうち「文法テキスト」を用いたクラス（以下、「文法クラス」）である。文法シラバスに基づいて構成されたテキストを毎年担当教員が選んで使用している。例年、直説法、接続法および命令法といった動詞の活用体系を中心に基本スペイン語文法をある程度網羅的に学習し、「[テキスト「ブラサマヨール」を用いた総合クラスと]異なる視点から多角的に文法を理解させる狙い」（青砥、2018: 85）があると同時に、スペインの出版社によるテキスト *Nuevo Español en marcha 1* (SGEL) を用いた「会話クラス」における文法知識の下支えの役割を果たしている。

2020 年度の 1 年次生は総勢 90 名で、これを 4 グループに分割するので 1 グループあたりの規模は 22 名前後となった。前後期ともに筆者が 2 グループを、非常勤教員 2 名がそれぞれ 1 グループを担当した。時間割の都合上、3 グループが火曜日に、1 グループが木曜日に設定された。

3. 授業設計

2020 年度は専任教員である筆者が文法クラスの教科書の選定から課題などの教材や小テストの準備までの授業設計を行なった。しかし、学期開始直前に対面からリアルタイム型オンラインへと授業形態が変更されたことで授業設計の見直しを迫られ、授業の具体的な目標をどのように設定するのか、目標の達成度をどのように測り評価するのか、評価やオンライン授業のために利用できる ICT は何か、といったことが主な検討事項となった。以下ではこれらの問題意識を念頭に、まず 3.1 で文法クラスの目標と評価方法について、次に 3.2 で授業スケジュールと ICT を活用したオンライン授業の流れについて、そして 3.3 で評価方法の課題と小テストについて述べる。なお、本稿で扱うのは文法クラスでありコミュニケーション活動を行うことに主眼を置かないが、授業設計にあたっては部分的に『外国語学習のめやす』（国際文化フォーラム、2012）を参考にしている。

3.1. 目標と評価方法

当初対面授業を想定して文法クラスの目的である「基本スペイン語文法の体系的な理解」に適よう選んだ教科書は『スペイン語基礎文法』（和佐

敦子、白水社、2014)であったが、オンライン授業にも利用できると判断して変更しなかった(教科書の目次については3.2を参照)。しかし、1年を通して対面では授業を行えないという制約により大きな影響を受けたことの1つが試験の実施方法であった。従来は文法クラスに限らずどのクラスでもたいてい中間試験と期末試験をペーパーテストで行い成績評価基準の一部としてきたが、オンライン試験では教科書や辞書などの参照を一切禁止することは事実上難しい。また、複数の単元に渡ってその理解度を試す定期試験は必然的に問題の分量も多く試験時間も長くなり、オンラインで安定的に行うには不安要素が大きかった。ペーパーテストに代わる評価手段としてレポート課題という選択肢もあったが、最終的には文法クラスでは中間・期末試験は行わないという選択をした。この決定を後押ししたのは、前期授業の成績評価の表示方法における大学側からの配慮があったおかげである。従来は「A+」「A」「B」「C」「F(不合格)」の5段階による評価であったが、「Pass(合格)」「Fail(不合格)」の2種類による表示も認められたのである。「スペイン語基礎」科目は全体で後者の方法を採用し、これにより授業を進める上で学習者を成績ごとに細かく区別することよりも学習を促進することに注力しやすくなったと言える。

これに合わせて学習目標も細かく設定し、単元(基本単位は教科書の課)ごとの理解を目標に置くことにした。そのために2種類の評価方法を用意した。1つは一定期間内であれば何度でも再提出が可能な文法演習課題(以降、「授業外課題」あるいは単に「課題」と呼ぶ)で、学習内容を振り返りながら練習問題に取り組んでもらい、間違えた問題については教科書やノートなどを見直して再度取り組んでもらうことで理解の向上と知識の定着を図るものである。もう1つは単元の文法項目に関する知識の理解度を試すための小テストである。これは従来のペーパーテストを意識したもので、1度のみの受験とした。課題と小テストの詳細については3.3で扱う。

最後に、従来の対面授業においては授業への参加度を評価する平常点を評価基準に組み込んでいるが、前期のうちはこの基準を採用しなかった。その理由としては、急遽オンライン授業への変更となり、その経験がない

状況ではリアルタイム型での学生と教員または学生同士での相互のやり取りがどのようなものになるのかについてあまり見通しが立たず、他方では通信状況のトラブルなどにより参加したくてもできない学生がいるのではないかと、教員側もつねに安定した通信環境を確保しつつインタラクショ

ンを実現できるのか、などといった懸念があったからである。

以上述べた評価方法と次の基準から最終成績点を算出することとした。

表 1 成績評価方法

| 前期 | 後期 |
|------------|--------------------------|
| P/F 評価 | 5 段階 (A+, A, B, C, F) 評価 |
| 小テスト… 50% | 参加度… 20% |
| 授業外課題… 50% | 小テスト… 40% |
| | 授業外課題… 40% |

3.2. 授業スケジュールと各回の流れ

次に授業スケジュールと各回のオンライン授業の基本的な流れについて述べる。まず授業スケジュールを組み立てるにあたって、2020 年度は例年と大きく異なることがあったことを書き留めておく。それは東京オリンピック・パラリンピックによる特例措置として学年暦が変更されていたことである。具体的には、例年半期 15 週に渡って授業を行うところ前期に限っては 13 週に短縮され、2 週分の授業が「授業関連活動」として授業時間外で行われる予定であった。その後大会の開催が 1 年延期となったのは周知の通りであるが、かわってウイルス感染症対策により授業開始日が 3 週間ほど繰り下げられたことにより、結果的に東京五輪特例措置が取られた場合と同様の授業スケジュールとなった²⁾。

さて、使用する教科書は 20 課で構成されているが、1・2 年次で計画されている学習項目に照らし合わせて文法クラスでは 19 課までを学習範囲とした。学習項目の数や種類、難易度を勘案し、授業週に合わせて文法シラバスなりの「教科書のアダプテーション」(国際文化フォーラム、2012: 64-65)を行った。教科書の目次を元に各週で扱う文法項目を挙げつつ授業スケジュールを示すと表 2 のようになる。

表2 授業スケジュール

| 週 | 前期 | 後期 |
|---|--|--|
| 1 | 授業案内 | 授業案内、前期の復習 |
| 2 | Lección 1: 1 アルファベット、2 母音、3 子音、4 音節の分け方、5 アクセントの位置 課題 01 | Lección 11: 1 命令法、2 不定詞、3 現在分詞 課題 11 |
| 3 | Lección 2: 1 名詞の性、2 名詞の数、3 冠詞、4 基数詞 (0 ~ 10) 課題 02、小テスト 01 | Lección 12: 1 過去分詞、2 直説法現在完了、3 不定語と否定語 課題 12、小テスト 11 |
| 4 | Lección 3: 1 形容詞、2 主格人称代名詞、3 ser の直説法現在、4 否定文、5 疑問文 課題 03、小テスト 02 | Lección 13: 1 比較表現、2 最上級表現、3 絶対最上級、4 感嘆文 課題 13、小テスト 12 |
| 5 | Lección 4: 1 規則動詞の直説法現在、2 目的語と前置詞 a、3 前置詞 a, de + 定冠詞 el、4 疑問誤疑問文、5 接続詞 課題 04、小テスト 03 | Lección 14: 1 規則動詞の直説法点過去、2 従属節を導く接続詞、3 縮小辞 課題 14、小テスト 13 |
| 6 | Lección 5: 1 estar の直説法現在、2 hay、3 基数詞 (11 ~ 100)、4 序数詞、5 時刻・曜日・日付の表現 課題 05、小テスト 04 | Lección 15a: 1 不規則動詞の直説法点過去 課題 15a、小テスト 14 |
| 7 | Lección 1 ~ 5 の復習 小テスト 05 | Lección 15b: 2 受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞 課題 15b、小テスト 15a |
| 8 | Lección 6: 1 不規則動詞の直説法現在 (1)、2 指示詞、3 所有詞 (1) 課題 06 | Lección 16a: 1 直説法線過去、2 直説法過去完了 課題 16a、小テスト 15b |
| 9 | Lección 7: 1 不規則動詞の直説法現在 (2)、2 目的格人称代名詞、3 所有詞 (2) 課題 07、小テスト 06 | Lección 16b: 3 関係詞 課題 16b、小テスト 16a |

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

| 週 | 前期 | 後期 |
|----|--|---|
| 10 | Lección 8: 1 不規則動詞の直説法現在 (3)、2 副詞 (句)、3 muy と mucho、4 理由・目的・結果を表す表現 課題 08、小テスト 07 | Lección 17a: 1 直説法未来、2 直説法未来完了 課題 17a、小テスト 16b |
| 11 | Lección 9: 1 前置詞、2 前置詞格人称代名詞、3 gustar 型動詞 課題 09、小テスト 08 | Lección 17b: 3 関係詞の独立用法 課題 17b、小テスト 17a |
| 12 | Lección 10: 1 再帰動詞、2 無人称文、3 基数詞 (101 ~ 100.000.000) 課題 10、小テスト 09 | Lección 18a: 1 直説法過去未来、2 直説法過去未来完了 課題 18a、小テスト 17b |
| 13 | Lección 6 ~ 10 の復習 小テスト 10 | Lección 18b: 3 間接話法 課題 18b、小テスト 18a |
| 14 | | Lección 19 (命令文を中心に) ³⁾ 課題 19、小テスト 18b |
| 15 | | 後期のまとめ 小テスト 19 |

前期のうちは主に直説法現在の形態と用法の理解を学習目標に 10 課までを学習範囲とした。1 回の授業につき 1 課分のトピックを扱うようにして進め、折り返しのタイミング (前期第 6 週と第 13 週) でそこまでの内容を振り返る復習回を設けた。後期にはスペイン語の動詞体系の中でも活用・用法ともに山場とされる 2 種類の過去形、文構造がより複雑になる受動文や関係詞、間接話法といった文法項目を扱うため、15 課 (後期第 6 週) 以降は学習目標を (a) 動詞の活用と用法と (b) それ以外の文法項目に分けることで 1 課を 2 週にかけて学ぶように調整した。

この授業スケジュールに従い、反転授業の手法を取り入れて毎回の授業を行った。反転授業に欠かせないのが授業外の学習を支えてくれるプラットフォームの存在である。文法クラスでは学習管理システム (LMS) の 1 つ Moodle を用いた。授業用コースのトップページ上部には主に初回の授業で使う配布資料などを置くセクションが配されている (図 1)。

図1 Moodle コーストップページ(上部)

スペイン語基礎Ⅰ(文法)

Home / コース / KUJIS / スペイン語専攻 / 外国語科目・地域言語科目 / スペイン語基礎Ⅰ(文法)



アナウンスメント

質問箱

授業中に解決しなかった疑問やスペイン語に関する質問を受け付けます。

スペイン語学習サポートについて (前期)

スペイン語学習サポートについて (後期)

前期授業について

前期授業案内

毎回の授業の流れ

小テストについて (前期)

授業外課題について (前期)

テキストの音声

テキスト (見本 LECCIÓN 1) 1023.7KB

テキスト (見本 LECCIÓN 2) 628.6KB

テキスト (見本 LECCIÓN 3) 752.5KB

この下に各授業週のセクションが続き、その中には基本的に3種類の教材「文法補足解説」「授業外課題」「小テスト」が置かれている。文法補足解説は事前学習用の資料で、動画ではなくPDFファイルの形で用意した。教科書のすべての例文に和訳を付け、文法項目に対しては適宜教科書の説明を詳しくして、ときには教科書にはない説明を追加した。

毎回の授業の流れは「【授業前】文法補足解説で予習→【授業時】練習問題の確認、小テスト→【授業後】課題で復習」というサイクルになっている。リアルタイムの授業はZoomを用いて行い、ビデオのオンオフは自由とした(筆者の担当授業では開始時の挨拶でのみ参加者全員にビデオをオンにしてもらい、その後は教員も含め終始オフにした)。前期のうちはZoomミーティングを録画しなかったが、ネット接続の不調等で参加できない学生がいた場合には練習問題の解答をPDFファイル(コピー・プリント不可の設定)にして個別にメールで送り自習してもらった。後期は毎回Zoomミーティングを録画してMoodle上でリンクを公開した(ただし筆者担当グループのみ、図2右側参照)。

図2左側に示した前期第2回(5月4日～5月10日の週)を例に取ると、

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

図 2 Moodle コーストップページ (各週セクションの一部)

| | |
|--|---|
| 04/27 - 05/3 | 10/20(火), 10/29(木) |
|  スペイン語タイピング練習 |  文法補足解説 LECCIÓN 15 修正 2018 10月 20日 06:24 |
| 05/4 - 05/10 |  課題15a |
|  文法補足解説 LECCIÓN 1 |  LECCIONES 14-15a 復習用問題集 |
|  授業外課題 LECCIÓN 1 |  Zoom Clase B[10/20] |
| 05/11 - 05/17 |  Zoom Clase D[10/20] |
|  文法補足解説 LECCIÓN 2 |  小テスト14 |
|  小テスト LECCIÓN 1 | 10/27(火), 11/5(木) |
|  授業外課題 LECCIÓN 2 |  課題15b |
| |  LECCIONES 15b 復習用問題集 |
| |  Zoom Clase B[10/27] |
| |  Zoom Clase D[10/27] |
| |  小テスト15a |

授業の流れは次のようになる。学生はまず事前学習として第 1 課 (LECCIÓN 1) の文法補足解説を読み教科書の練習問題をできるかぎり解いてからリアルタイム授業に臨む。授業時の主な活動は練習問題の確認作業である。授業は練習問題の答え合わせから始め、文法解説から始めることはせず、確認作業中にエラーがあったり学生から質問があったりした場合、あるいは授業の最後に学習項目を総括したい場合に説明をするというスタイルを取った。確認作業は単調にならないよう問題形式に合わせて変化を持たせるよう次のようなやり方を組み合わせて行った: (a) 1 人ずつ指名して口頭で答えさせる、(b) 1 問ずつ全員でマイクをオンにして解答を復唱、(c) 応用問題として教科書で指定されている以外の人称・数で同じ動詞を活用させる、(d) ブレイクアウトルームを使ってペアで答え合せ、(e) ペアワークの後に 1 ペアずつ指定して解答 (スペイン語) とその日本語訳を読み上げてもらう、(f) Zoom の投票機能を使って答え合わせ、(g) とくに口頭での確認作業の場合には Zoom のチャット機能を使って補助的に解答を提示する。

後期の後半からは学習項目の数が少なくなる分、教科書とは別に用意した練習問題 (図 2 右側「復習問題集」フォルダ内に格納) に取り組んだり自由作文などに挑戦したりすることもあった。授業時間の最後に小テストを行い、授業外課題の案内をして終了とした。なお、毎回の授業後には文法

クラスの担当教員間でメールを通じて授業報告や目立ったり気になったりした解答・誤答などの情報を共有しながら授業運営に当たった。

3.3. 課題と小テスト

本節では学習の結果を測るための評価に用いる課題と小テストについて述べる。どちらも前期は Google フォーム、後期は Moodle の小テスト機能を用いて作成し、Moodle の各セクションに用意した。学生は定められた期限までに取り組んだ。

課題

課題の提出期限は 4 グループとも同じとし、前期は授業と同じ週の日曜日 23:59 までに、後期はもう少し余裕を持たせて原則として授業と同じ週の火曜日から翌週の水曜日 23:59 までに設定した。課題は学習内容の復習と演習を目的にしたもので、繰り返し解答できる設計にした。間違えた問題は教科書やノートなどを見直して繰り返し解き直し、期限までに全問正解を目指すよう指示した。

図 3 と図 4 に各回の得点結果を示す。前期は課ごとに出题数が異なっていたので 10 点満点に換算した上で平均点を出した。後期は各課 10 題 (10 点満点) になるよう調整したので、そのままの平均点である。前期ではほぼ全員が満点で提出しているが (図 3)、これはすべての課題を満点で終えてから次の単元に進むことを強く求めた結果だと考えられる。反対に後期ではそうした強要はせずに自由にさせたところ、全体的に得点が下がる結果となった。それでも 7 割以上の水準を保っていることから概ね目的は果たされていると言えよう。

小テスト

小テストの実施のタイミングは原則授業時間内の最後としたが、厳格にコントロールすることはしなかった。中には授業の途中でネット接続のトラブルにより Zoom 参加ができなくなる学生がいたからである。最終的な受験期限は 4 グループ共通で、前期は授業と同じ週の金曜日 23:55 までに、

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

図 3 前期課題の平均点

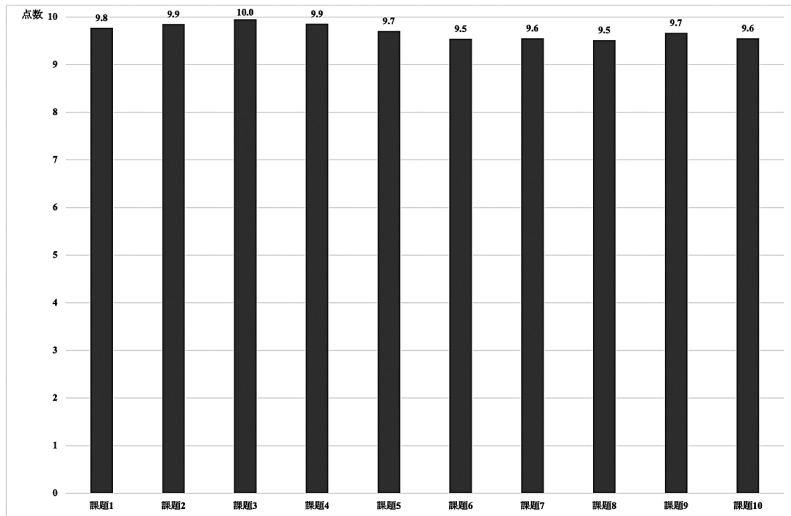
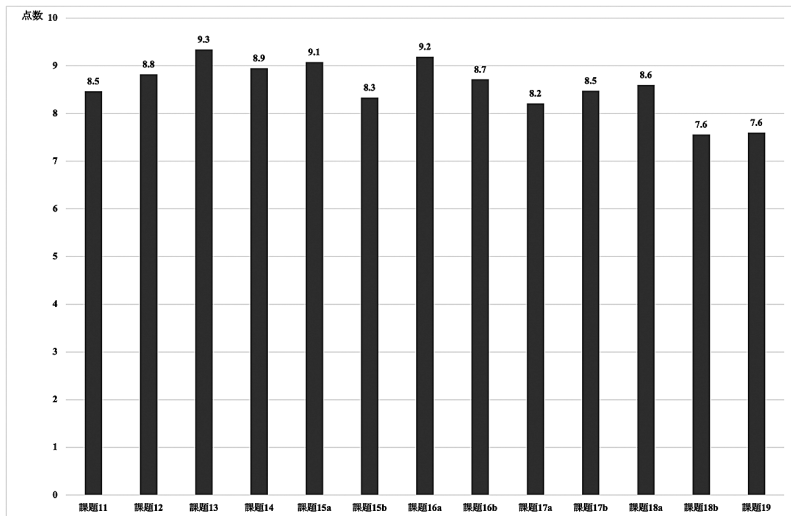


図 4 後期課題の平均点



後期は基本的に水曜日にテストを公開しそこから 1 週間以内に設定した。小テストは学習項目に関する知識の理解度を試すことを目的にしたもので、従来のペーパーテストと同様に 1 度のみの受験とした。前後期とも計 10 問 (10 点満点) を出題することで統一し、受験時間は 10 分と定めた (しかし Google フォームではそうした制限時間を設けることが困難であったため、前期はあくまで目安とするにとどめた)。

次の図 5 と図 6 における数値は各回の小テストの単純な平均点を示している。先の課題の平均得点の結果と比較すると、小テストの方が全体的に低い点数になっていることがわかる。やはり複数受験可否の違いが大きく影響しているのだろう。いっぽう、同じ小テストでも前後期との間には制限時間以外にも次のような出題範囲の違いがあった。前期は慣れないオンライン環境での実施であったことを考慮し、また 3.1 で触れたように成績評価のためには可否の見極めができれば十分だったので、既習内容を着実に押さえるという意味合いをより強くして教科書の練習問題と授業外課題の問題から出題することにした。後期では、やはり落とすことが目的の試験ではないので難しくなりすぎないように注意しながらも初見の問題を用意した。なお、前後期ともに遠隔授業ではあらゆる資料の参照を禁止することが難しいため、参照可であることは明言してある。

さらに、3.2 で述べたような文法項目の難易度の差もこの小テストの結果に反映されていると考えられる。まず前後期を通して最も平均が低いのは受動文を扱う単元 15b (4.1 点) で、これに接続法を用いた命令文の単元 19 (5.3 点) が続く。残りの回は 6 割以上の得点だが、後期では点過去の単元 15a (6.1 点) と命令法の単元 11 (6.2 点) が相対的に低い。そして直説法を扱う前期においても、初めて動詞を含んだ文単位の構造 (つなぎ動詞 *ser* + 補語) を学ぶことになる単元 3 (6.7 点) と再帰動詞の単元 10 (6.9 点) の 2 課で 7 割を下回っているのは当然の結果かもしれない。

4. 授業評価アンケートの結果

ここまで本稿で考察する文法クラスの授業設計を見てきた。ここからは学内で学期末に実施している授業評価アンケートの結果を元に、本授業の

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

図 5 前期小テストの平均点

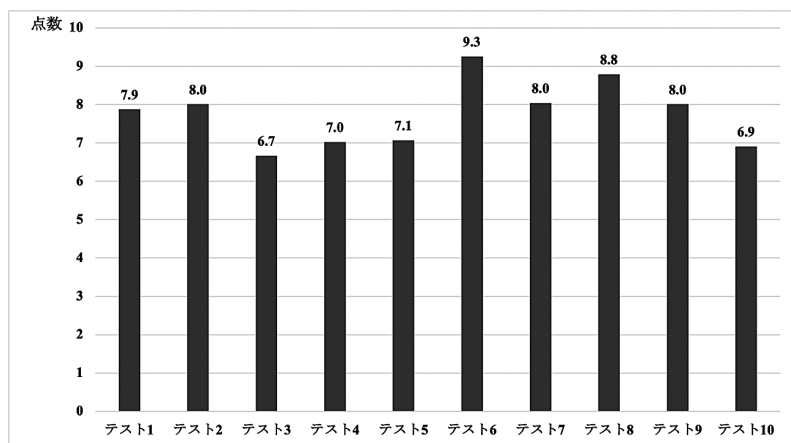
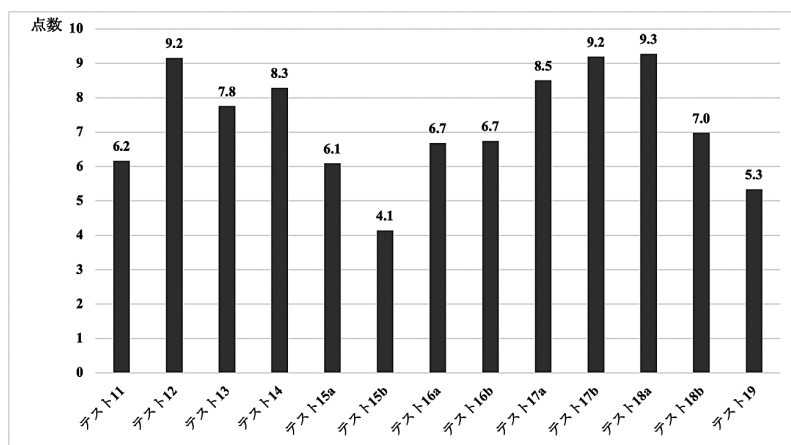


図 6 後期小テストの平均点



良かった点と改善点について検討していく。文法クラスでは全4グループの90名に対して行い、前期は71名、後期は40名からの回答を得た。その結果を集計したものが表3である⁴⁾。左側にすべての質問項目と回答の選択肢、右側に(a)前期および(b)後期における回答数と回答率(それぞれの分母は71と40)を示した。回答は択一式で、一部には自由記述欄が設けられている。

表3 授業評価アンケートの結果

| | (a) | (b) |
|---|----------|----------|
| 問1. この科目を履修した理由について、あなたにとって最もあてはまるものはどれですか？ | | |
| (1) 内容に興味があったから | 8 11.3% | 3 7.5% |
| (2) 関心のある教員が担当だったから | 0 0.0% | 1 2.5% |
| (3) 取りやすい時間帯に設定されていたから | 0 0.0% | 1 2.5% |
| (4) その他(自由記述欄) | 63 88.7% | 35 87.5% |
| 問2. 授業時間内および(予習や課題など)授業時間外であなたが費やした学習量はどうか？ | | |
| (1) かなり多かった | 13 18.3% | 10 25.0% |
| (2) やや多かった | 49 69.0% | 25 62.5% |
| (3) やや少なかった | 9 12.7% | 5 12.5% |
| (4) かなり少なかった | 0 0.0% | 0 0.0% |
| 問3. 教員の説明は丁寧でしたか？ | | |
| (1) そう思う | 53 74.6% | 26 65.0% |
| (2) ややそう思う | 10 14.1% | 11 27.5% |
| (3) あまりそう思わない | 8 11.3% | 2 5.0% |
| (4) そう思わない | 0 0.0% | 1 2.5% |

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

問 4. 教員は授業の内外で学生に質問ができる機会を与えましたか？

| | | | | |
|---------------|----|-------|----|-------|
| (1) そう思う | 50 | 70.4% | 26 | 65.0% |
| (2) ややそう思う | 15 | 21.1% | 10 | 25.0% |
| (3) あまりそう思わない | 4 | 5.6% | 3 | 7.5% |
| (4) そう思わない | 2 | 2.8% | 1 | 2.5% |

問 5. 教科書、参考書、配布資料などの教材は、授業内容の理解に役立ちましたか？

| | | | | |
|---------------|----|-------|----|-------|
| (1) そう思う | 58 | 81.7% | 31 | 77.5% |
| (2) ややそう思う | 11 | 15.5% | 6 | 15.0% |
| (3) あまりそう思わない | 2 | 2.8% | 3 | 7.5% |
| (4) そう思わない | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

問 6. 教員は授業方法に対して十分な工夫をしていたと思いますか？

| | | | | |
|---------------|----|-------|----|-------|
| (1) そう思う | 47 | 66.2% | 27 | 67.5% |
| (2) ややそう思う | 15 | 21.1% | 9 | 22.5% |
| (3) あまりそう思わない | 8 | 11.3% | 3 | 7.5% |
| (4) そう思わない | 1 | 1.4% | 1 | 2.5% |

問 7. この授業の難易度・レベルは、あなたにとってどうでしたか？

| | | | | |
|--------------|----|-------|----|-------|
| (1) 難しすぎた | 2 | 2.8% | 5 | 12.5% |
| (2) やや難しかった | 32 | 45.1% | 25 | 62.5% |
| (3) ちょうどよかった | 33 | 46.5% | 10 | 25.0% |
| (4) 易しかった | 4 | 5.6% | 0 | 0.0% |

問 8. この授業の進む速さは、あなたにとってどうでしたか？

| | | | | |
|--------------|----|-------|----|-------|
| (1) 速すぎた | 3 | 4.2% | 2 | 5.0% |
| (2) やや速かった | 19 | 26.8% | 22 | 55.0% |
| (3) ちょうどよかった | 49 | 69.0% | 16 | 40.0% |
| (4) 遅かった | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

問 9. あなたはこの授業で扱われた内容について興味・関心が深まりましたか？

| | | | | |
|---------------|----|-------|----|-------|
| (1) そう思う | 52 | 73.2% | 30 | 75.0% |
| (2) ややそう思う | 17 | 23.9% | 7 | 17.5% |
| (3) あまりそう思わない | 2 | 2.8% | 3 | 7.5% |
| (4) そう思わない | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |

問 10. この科目の履修を終えた今のあなたにとって、最もあてはまるのはどれですか？

| | | | | |
|------------------------------|----|-------|----|-------|
| (1) 同じテーマでさらに高いテーマの授業を受けてみたい | 38 | 53.5% | 16 | 40.0% |
| (2) 同じ教員の関連ある別の授業を受講してみたい | 16 | 22.5% | 11 | 27.5% |
| (3) この授業だけで概ね満足している | 16 | 22.5% | 13 | 32.5% |
| (4) その他 (自由記述欄) | 1 | 1.4% | 0 | 0.0% |

問 11. この科目の良かった点がありますか？ 最も良かった項目を 1 つ選択し、内容を記入して下さい (自由記述)

| | | | | |
|------------------|----|-------|----|-------|
| (1) 予習・課題 | 17 | 23.9% | 4 | 10.0% |
| (2) 授業説明・授業方法 | 32 | 45.1% | 17 | 42.5% |
| (3) 教科書・参考書・配付資料 | 10 | 14.1% | 8 | 20.0% |
| (4) 授業の難易度・レベル | 2 | 2.8% | 0 | 0.0% |
| (5) 授業の進行度 | 4 | 5.6% | 1 | 2.5% |
| (6) 特にない | 6 | 8.5% | 10 | 25.0% |

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

問 12. この科目の授業について改善してほしい点がありますか？ 最も改善してほしい項目を 1 つ選択し、改善内容を記入して下さい（自由記述）

| | | | | |
|------------------|----|-------|----|-------|
| (1) 予習・課題 | 5 | 7.0% | 2 | 5.0% |
| (2) 授業説明・授業方法 | 8 | 11.3% | 3 | 7.5% |
| (3) 教科書・参考書・配付資料 | 2 | 2.8% | 1 | 2.5% |
| (4) 授業の難易度・レベル | 0 | 0.0% | 2 | 5.0% |
| (5) 授業の進行度 | 3 | 4.2% | 5 | 12.5% |
| (6) 改善点はない | 53 | 74.6% | 27 | 67.5% |

（大学からのデータを元に筆者作成）

これら 12 のアンケート項目のうち、問 11 への回答を中心に本授業の良かった点について考察する。また、問 12 への回答を中心に本授業の改善点について検討していく。

5. 考察

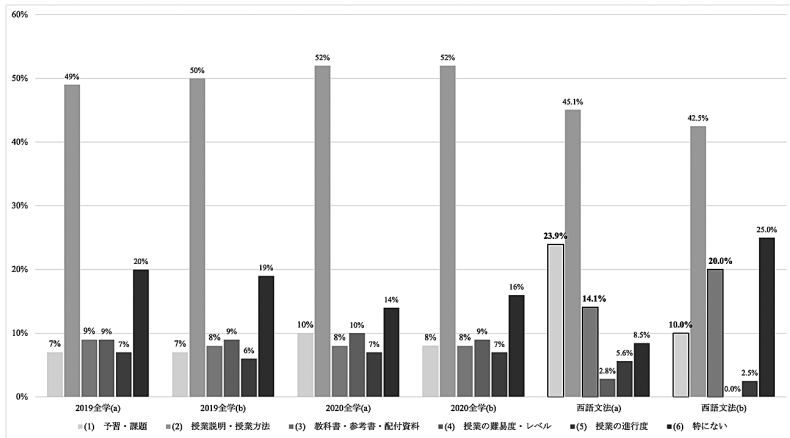
考察にあたっては、2020 年度および 2019 年度の本学全体の専攻言語科目（以下、「全学」）に対する授業評価アンケートの結果を比較対象にする。同じコロナ禍における文法クラス（以下、図表中では「西語文法」と表記）と全学との違いについて、また対面とオンラインによる違いについて観察するためである。なお、参考までに各科目のアンケート回答数は次の表 4 のようになっている⁵⁾：

表 4 アンケート回答数（ただし、全学は回答延べ人数）

| | |
|-------------|--------------------|
| 西語文法 (a) | … 71 名 (回答率 78.9%) |
| 西語文法 (b) | … 40 名 (回答率 44.4%) |
| 2020 全学 (b) | … 5802 名 |
| 2020 全学 (a) | … 6927 名 |
| 2019 全学 (b) | … 6403 名 |
| 2019 全学 (a) | … 7839 名 |

（大学からのデータを元に筆者作成）

図7 問11. 授業の良かった点(1つのみ選択)



5.1. 良かった点

さて、「問11. この科目の良かった点がありますか?」に関して文法クラスと全学のアンケート結果を比較した図7を見てみよう。

まず2019年度と2020年度では全学の回答傾向に大きな違いはない。強いて言えばオンライン授業ではより(1)予習・課題の点を評価しているということだろうか。そして文法クラスではとくに前期においてこの点が良かったとの答えが目立つ。

この結果と関連させて注目したいのが、「問2. 授業時間内および(予習や課題など)授業時間外であなたが費やした学習量はどうか?」への回答である(図8)。本学では例年7割以上の学生が専攻言語科目の学習量が多いと回答しているが(注5に挙げたリンク参照)、木本(2021)や中川(2021)でも報告されているように、オンラインが主体の2020年度では授業時間外の学習時間が少なからず増加傾向にあり、文法クラスにおいては全学よりもさらに学習量が「かなり多かった」「やや多かった」と答える割合が多い結果となった。これらのことから、時間をかけて学習をする中で、反転授業のメソッドや教材として用意した課題などが一定の評価を得たと判断できよう。自由記述では「自力で解き次の授業で答え合わせをす

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

図 8 問 2. 授業時間内外の学習量

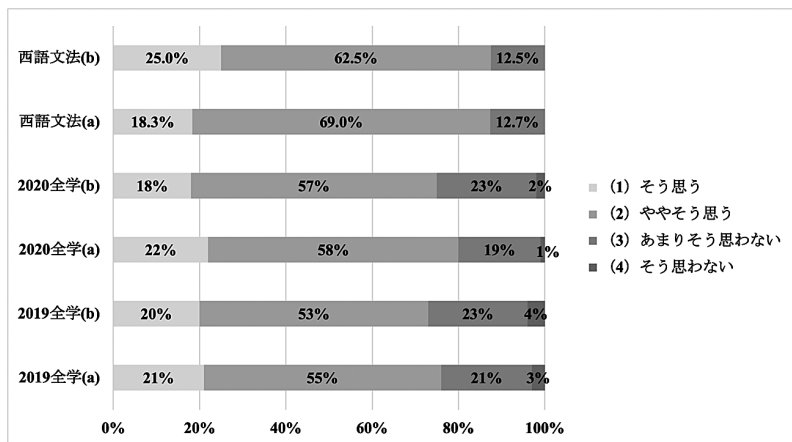
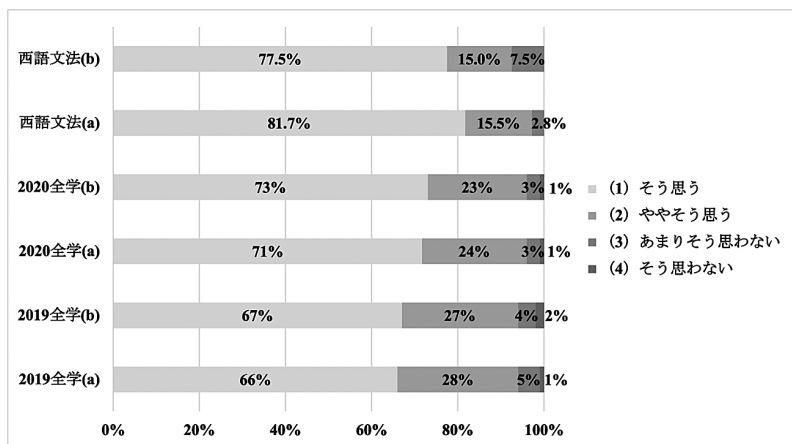


図 9 問 5. 教材が授業内容の理解に役立った



るやり方はとてもよかった」「毎週課題が出るためスペイン語学習が効率よくできたと思う」という回答もあった。また「予習の習慣がついたから」というコメントからは、授業を通してより自律的な学習者に成長する学生の姿も見えてくる。

次に、問11で(3)教科書・参考書・配付資料の点を挙げる割合が全学と比べ際立って高いことにも注目に値する。反対に(2)授業説明・授業方法の回答割合が低くなっているが、これは質問項目が択一回答方式であることを考えれば自然であるし、むしろ、教員のリアルタイム授業での説明の仕方が一定の肯定的評価を得るいっぽうで、共通の教材もそれなりの有用性を示したと言えるのではないだろうか。このことは図9に示すように、問5に対して「そう思う」「ややそう思う」という肯定的な回答の割合が、やはり全学の結果より高いことから窺える。また、問11の自由記述回答からも「文法解説のプリントがわかりやすい上に、いつでも見ることができた」「復讐[sic]テストと予習課題が役に立った」のように具体的な意見が散見されたことも付け加えておく。

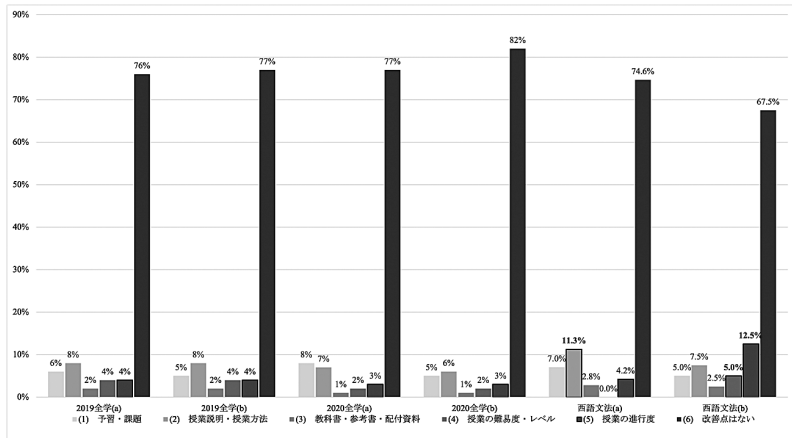
5.2. 改善点

今度は「問12. この科目の授業について改善してほしい点がありますか?」に対する回答結果を比較した図10を見てみよう。

前節で見た良かった点と同様に、改善点についても全学における回答傾向は2019年度と2020年度とで概ね類似している。それは、改善項目の上位に(1)学習量と(2)授業説明・授業方法が挙げられているところであり、その点では文法クラスでもある程度同じと言える。(1)学習量についてはすでに上述したように(5.1、図8)、オンライン授業一般に指摘される問題である。ここで一見、文法クラス前期では(2)の方の割合が目立って高い(11.3% = 8名)。内訳を見ると、6件の回答は同一グループから得られているので、そこにはグループ特有の個別的要因が働いている可能性を否定できない。そこで(2)を選択した上で自由記述をした6件の内5件の回答に目を向けてみると、「もう少しゆっくり解説をしてほしいです」「もう少し詳しく説明していただきたいです」「文法の説明をさらっとやるのであま

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

図 10 問 12. 授業の改善点 (最も改善してほしい項目を 1 つ選択)



り理解していないこと多かった」「説明が少なすぎると感じた」「説明にもう少し時間をかけてほしい」とある。ここに観察される「ゆっくり」「時間(をかける)」という概念はすなわち「進度」に直結するものとして解釈されるだろう。しかし、「詳しく」「さらっと」「少ない」は内容・質・量に関係するため、これらの回答すべてが進度に言及していると考えるのは早計であろうし、たとえ「ゆっくり」といった場合でも「丁寧に」「詳しく」というパラフレーズを考えれば、もはや進度とはみなせないだろう。

さて、本来の意味での「進度」に関わる (5) 授業の進捗度を最も改善してほしい点として指摘する声が最多であったのが文法クラスの後期授業である (12.5% = 5 名)。これは全学との結果と比べて大きく異なっている。そこで関連する問 8 への回答結果 (図 11) を見てみよう。

確かに全学の結果に対して文法クラスでは (1) 速すぎたと (2) やや早かったという回答の割合が多いこと、とくに後期においてはその数が半数以上にも上がることがわかる (計 60% = 24 名)。問 12 での関連する自由記述欄には唯一「授業の進捗度をもう少しゆっくりにして欲しい」という意見が 1 件あるのみでこれ以上の詳しい要望についてはわからないが、この回答が後期に際立っているということは、その授業内容の難易度や扱う文法

図11 問8. 授業の進む速さについて

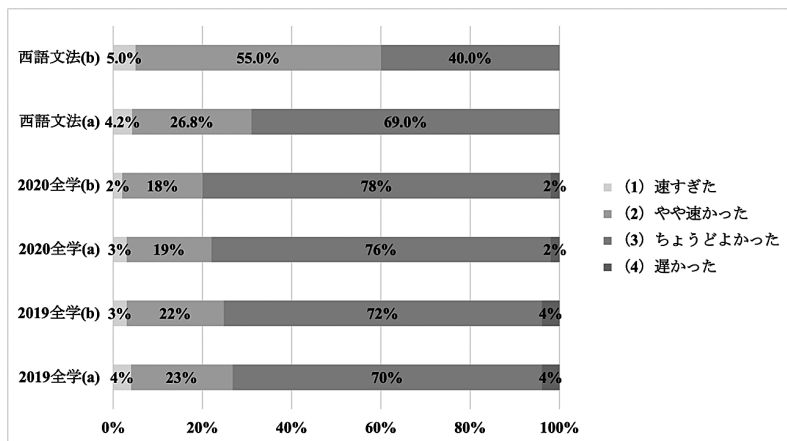
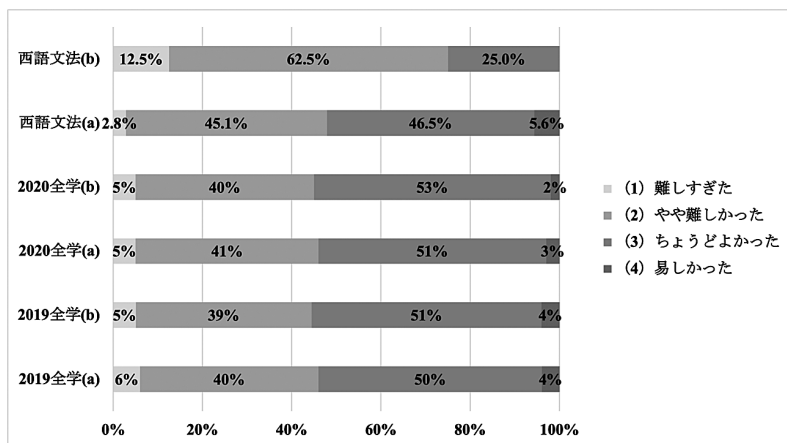


図12 問7. 授業の難易度・レベル



項目の量に比して授業時間数が足りない可能性が考えられる。学習目標とする項目の数を見直すことで改善につながれるのではないかな。

そこで最後にこの難易度に関する問7(図12)についての結果を見てみたい。前述の進捗の場合と同じように、後期文法クラスにおいては全学の結果と大きく異なり(1) 難しすぎた(2) やや難しかったの回答割合が多い(5名 + 25名 = 30名、75%)。また後期においては回答率が低いため量的な考察は望めないが(表4)、難易度自体が(やや) 高かったと評価しつつも、結果的にそれを第1の改善点としては指摘していないことから(5% = 2名)、理解が困難な内容でも時間をかけてじっくりと学びたいという学習者の心理が読み取れるのではないかな。なお、問12の自由記述欄には関連する意見は挙げられていない。

6. おわりに

以上の考察から、リアルタイム型オンライン授業での文法学習をより自律的で主体的なものにするための鍵は、授業時間外での学習を充実させることにあると言える。すなわち、反転授業の理念と方法論を取り入れ、事前学習と授業時間内の学習が有意義に結びつけられるようにオンデマンド型の学習環境を整えることである。この点に関して本文法クラスで試みたLMSを活用した教育・学習は一定の成果を取めたということが授業評価アンケートの結果から示された。また、自律的な学習を促す手法として、繰り返し解答可能な課題が有効であることも確認された。学生自身による「授業外課題は私にとって満点を取るのはとても時間がかかり大変でしたが、満点になるまでテキストで確認したり授業ノートを確認して取り組んだことで文法理解にとっても役に立ったと思います」(問11への自由回答より)という振り返りがそのことを物語っている。

いっぽう、本授業の改善点は主に授業進度にあると結論づけられ、学習目標をはじめとした授業設計の修正が必要であることもわかった。クラスや学習者の置かれた状況を精査した上で、カリキュラムを練り直し、対面授業を含めた今後の語学教育・学習にも積極的に応用できよう。また、さらに踏み込んだ議論としては、2年次以降などのよりレベルの高い語学教

育への応用についても考えるべきであろう。結城・峯崎(2015)では、本稿で取り上げたようなeラーニング教材は基礎的なスペイン語力を身につけさせる上では有用な手段でありつつも、より発展的なレベルにおける学習においては効果が期待されない可能性が指摘されている。引き続き実践を通じて研究を進めていく必要がある。

注

- 1) 青砥(2018: 88)で指摘されているように、かねてより1・2年次と3・4年次における地域言語科目の授業時間のバランスに偏りが見られたため、これを改善するためにスペイン語専攻のカリキュラムが再編されることとなった。1年次からは本稿で扱う文法クラスをなくすことで調整が図られ、結果として1・2年次の専攻言語の授業は1コマずつ減り週5コマとなった。このカリキュラムは2021年度の入学者から適用されている。外国語学習において文法項目をある程度網羅的かつ体系的に習得することは遅かれ早かれ重要なことであり、とりわけスペイン語を専攻言語として学ぶ教育課程においてその機会が減ることは惜しまれるが、卒業要件に定められた単位数の中で地域言語科目のみならず他の科目群との調整も考えればやむを得ない結果であろう。
- 2) この件の一連の通知については、文部科学省(2018)「平成32年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会特別措置法及び平成31年ラグビーワールドカップ大会特別措置法の一部を改正する法律による国民の祝日に関する法律の特例措置等を踏まえた対応について」平成30年7月26日発表 https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/hakusho/nc/1407708.htm、神田外語大学 HP 上のプレスリリース・メディア掲載「神田外語大学は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催中の学生ボランティア活動に伴い、前期学年暦を変更します」2019年10月18日発表 <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/53834/>、同ニュース「新学期の授業開始日一部変更等について」2020年3月24日発表 <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/60816/> を参照されたい(以上すべて2021年10月14日閲覧)。
- 3) 括弧内は筆者による。教科書19課では1接続法現在、2命令文、20課では1接続法現在完了、2接続法過去、3接続法過去完了、4条件文を学ぶが、近年これらはいずれも2年次での学習計画に組み込まれている。しかし、1年次の総合クラスや会話クラスでも命令文が学習項目に含まれていて、スペイン語の否定命令には接続法現在が用いられるため、文法クラスでは教科書19課のうち接続法現在の活用形と2の命令文までを学習の範囲とした。
- 4) 表中の回答率は小数点以下第2位を四捨五入しているので合計100%にならないことがある。筆者が担当しなかった2グループのアンケート結果について

反転授業と LMS を活用したオンライン文法授業の試み

は、それぞれの担当教員である豊丸敦子氏と喜多田敏嵩氏から提供していただいた。ここに記して両氏に深く感謝の意を表する。

- 5) 神田外語大学 HP 上の情報公表一覧「2-8: 授業評価アンケート」 <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/news/53438/https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/> より (2021 年 10 月 14 日閲覧)。この集計結果によると、2020 年度前後期にアンケートを実施した全科目に対する回答率はそれぞれ 52.4%と 46.4%で、文法クラスは前期こそ回答率が7割を超えて大学全体の平均を大きく上回っていたものの、後期は反対に下回ってしまっていることがわかる(3グループで半数以上が未回答であった)。本学ではアンケート実施形態を紙媒体からウェブ媒体に移行してから回答率の低迷が問題となっている。過年度のアンケート結果についてはリンク先を参照されたい。

参考文献

- 青砥清一 (2018) 「神田外語大学のスペイン語教育について」『言語メディア教育研究センター年報』(2018 年度)、81-96 頁
- 公益財団法人国際文化フォーラム (2012) 『外国語学習のめやす 2012: 高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』公益財団法人国際文化フォーラム
- 中川洋子 (2021) 「オンライン授業における『大1プロブレム』: 教室内でわかっていなかったことがわからなくなる」杉野俊子監修、野沢恵美子・田中富士美編『「つながる」ための言語教育: アフターコロナのことばと社会』明石書店、124-140 頁
- 木本圭一 (2021) 「ハイブリッド授業における反転授業の実践と効果」『2021 年度 ICT 利用による教育改善研究発表会 資料集』公益財団法人私立大学情報教育協会、令和 3 年 8 月 25 日、38-41 頁
- 結城健太郎・峯崎俊哉 (2015) 「Moodle を活用し授業外使用を目的としたスペイン語 e ラーニング教材研究」『e-Learning 教育研究』10 巻、23-31 頁